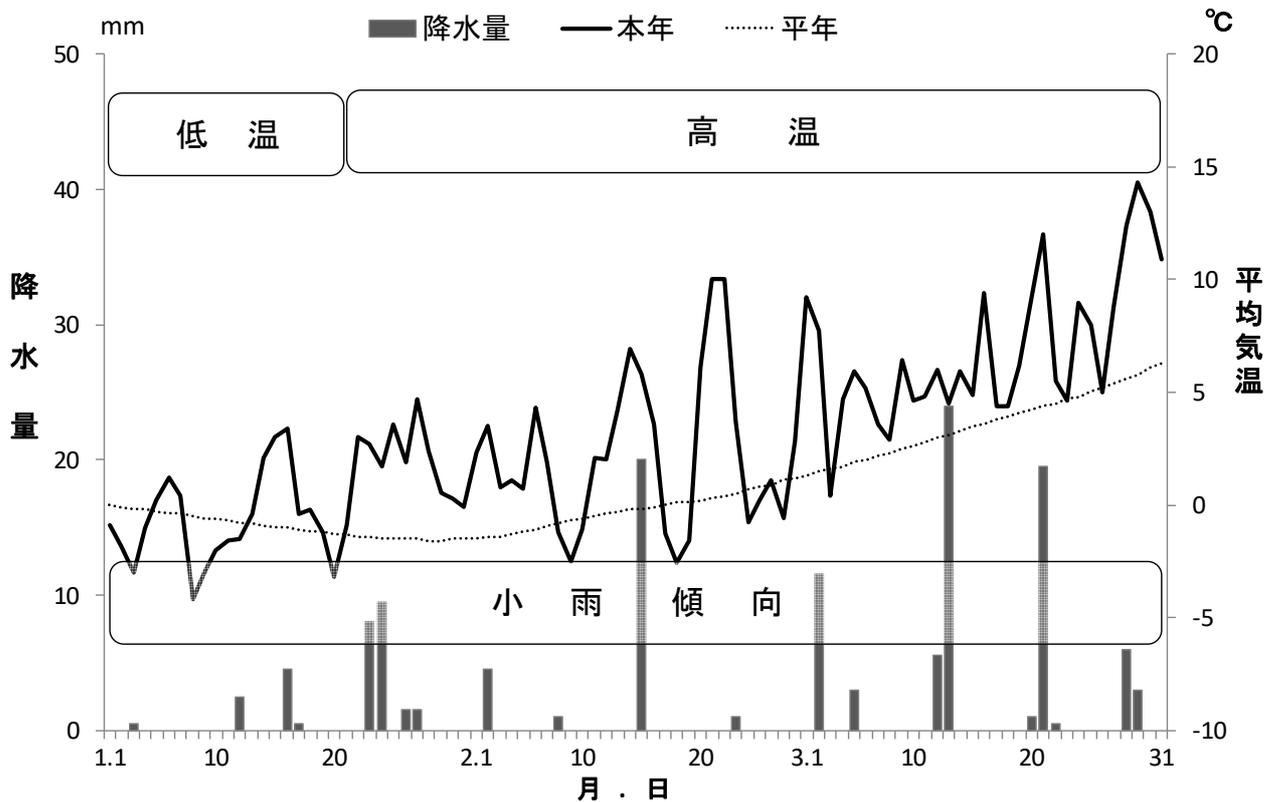


令和3年 作物技術普及情報 第4号

(麦の生育状況、2回目の追肥、水稻育苗管理について)

令和3年 気象経過(穂高アメダス 1月1日~3月31日)



1 気象状況

- ・ 1月中旬以降は高温で推移しており、降雨はあるものの少雨傾向となっています。今後の気温も、平年並みかやや高いと予想されています。

2 麦の生育状況と2回目(止葉展開期)の追肥について

(1) 麦の生育状況

湿害等の障害を受けてない場合は、以下の生育状況と推定されます。

- | | | |
|-----------|---|---------------|
| 10月下旬~ 播種 | → | 生育量は「過剰~やや過剰」 |
| 11月上旬~ 播種 | → | 生育量は「やや過剰~並」 |
| 11月中旬~ 播種 | → | 生育量は「並~やや少」 |

3月末現在、松本島内の定点圃場(11月5日播種)における麦類の生育ステージは以下のとおりです

大麦	幼穂長	4～5mm	止葉2枚下が抽出・展開中
小麦	幼穂長	2～3mm	

これまでの高温により、大麦・小麦ともに平年より7日程度進んでいると思われます。

今後も平年並みの気温で推移した場合、大麦は4月23日頃から、小麦は4月30日頃から出穂期を迎えると推定されます(平成28年並)。
このため、収穫時期も平年よりかなり早まることも予想されますので、コンバインや乾燥調製施設の稼働計画も、早めにご準備下さい。

生育進度は気象状況で左右されますので、今後の気象状況にはご注意ください。

また昨年同様にうどんこ病が発生している圃場が増えてきました。過繁茂な圃場や、ゆめきらりを作付けしている圃場では、今後の発生状況にご注意ください。

(2) 2回目の追肥時期

★ 一施肥二鳥や麦追肥1発肥料を施用した圃場では、2回目の追肥は不要です★

○ 大麦及び小麦(ゆめきらり、シラネコムギ、しゅんよう、ユメセイキ)は止葉展開期を確認して適期追肥をお願いします。

今後の気象状況にもよりますが、大麦は4月15日頃から、小麦(ゆめきらり、シラネコムギ、しゅんよう、ユメセイキ)は4月23日頃から、止葉展開期を迎えると思われます

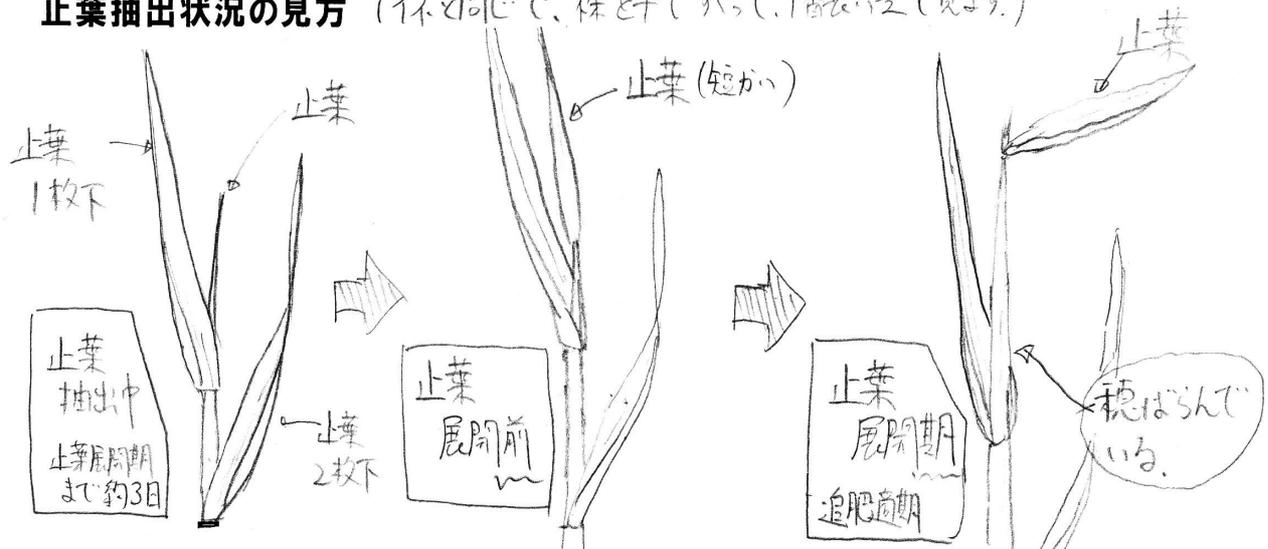
○ パン用小麦(ゆめかおり)は出穂状況を確認し、出穂期～穂揃い期(5月連休中と思われます)に追肥をお願いします。

○ 暖かい日が続くと、思ったより生育が進む場合があるので、今後の気象状況に注意してください

【注意】

- ★ 極端な早期追肥は倒伏を招きます。
- ★ 大麦の場合、適期を逃すと硬質麦(硝子率が増加)となり、品質ランクを落とします。
- ★ 小麦の場合、適期を逃したり、無追肥だと低タンパクになり、品質ランクを落とします。
- ★ 適期に散布しても、土壌が乾燥していると効きませんので、降雨が期待できない場合、灌水とセットで実施してください。

止葉抽出状況の見方 (体と同じで、株を手で取って、一番長い茎で見ます)



(3) 2回目の追肥量

播種時期によって生育差があります。圃場の生育状況に合わせた追肥量をお願いします。

追肥量の基準

★大麦及び小麦（ゆめきらり、シラネコムギ、しゅんよう、ユメセイキ）
窒素成分で 2 kg 前後 / 10 a（硫安の場合 10 kg 前後 / 10 a）

★パン用小麦（ゆめかおり）
窒素成分で 4 kg 前後 / 10 a（硫安の場合 20 kg 前後 / 10 a）

★以下は大麦・小麦（ゆめきらり、シラネコムギ、しゅんよう、ユメセイキ）の場合

生育が悪い圃場（播種遅れ、湿害、凍上害等による）

- 少なめ追肥 窒素成分で 1 kg/10a ⇒ 穂数少ないが登熟向上
- × 必要以上の追肥 ⇒ 大麦：硬質粒の発生、小麦：高タンパク化、粉色や・製麺性の低下

生育が良い圃場

- 基準の追肥 窒素成分で 2 kg/10a ⇒ 茎数が確保されている場合は、基準量を追肥して登熟向上
- × 追肥未実施 ⇒ 充実不足による小粒化、タンパク質量の低下

生育が過剰（過繁茂な圃場）

- 少な目追肥 倒伏の恐れがあるので、窒素成分で 1 kg/10a
- × 追肥未実施 ⇒ 充実不足による小粒化、タンパク質量低下

2 水稲の育苗管理

これから播種最盛期を迎えますが、寒暖の差が激しいと、ムレ苗や苗立枯病等が発生します。天気予報に十分注意し、適温管理の徹底をお願いします。

特に霜注意報が出た朝は晴天になることが多く、急激にハウスやトンネル内が高温になるので、換気を早めに行うようご指導ください。

平置き無加温出芽で、太陽シートを使用している場合、曇雨天等で低温傾向が続く場合は、晴天になった時に一旦被覆を開き、育苗箱の地温を上げてから再度被覆して、出芽を促してください。

また、ハウスのビニールや保温資材を新品にした場合、ハイマットやラブシートをべたがけしている場合は、晴天日の温度管理には細心の注意を払い、出芽後は速やかに除去するようお願いします。除去のタイミングが遅い場合がありますので、ご注意ください。

主な病害の病徴と原因

病 徴	病 害 名	原 因
<ul style="list-style-type: none"> ・ 出芽中、出芽後に茶色く腐敗 ・ 2葉期以降に発病→<u>引っ張ると葉が抜ける</u> ・ <u>2葉目が1葉目の葉鞘を突き破って出る</u>、その葉身の基部が白い ・ 全面枯れ(初期)～坪枯れ症状 	もみ枯細菌病	催芽、出芽時の高温 緑化期の高温、過湿 ほか
<ul style="list-style-type: none"> ・ 茶色くしおれる ・ 葉身の基部が白い ・ 根の生育が悪い ・ 坪枯れ症状 	苗立枯細菌病	催芽、出芽時の高温 緑化期の高温 ほか
<ul style="list-style-type: none"> ・ 苗が曲がっている ・ 葉鞘から葉身に褐色の条斑 ・ 苗箱の中で均一的に出る 	褐条病	催芽、出芽時の高温 ほか
立ち枯れ症状		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地際に白カビ、種籾の周りに淡紅色のカビ 	ゾリウムによる 苗立枯病	育苗初期の低温 立枯防除の不徹底 ほか
<ul style="list-style-type: none"> ・ 急激にしおれて、枯死 ・ カビがない ・ 症状が広がっている 	ピシウムによる 苗立枯病	緑化期以降の低温 立枯防除の不徹底 ほか
<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑化開始時に箱全体が白いカビに覆われ、やがて灰白色となる。籾のまわりに白いカビがはびこり、苗の生育は悪く黄緑色に退色する。 ・ 急激にしおれて、枯死 ・ カビがない ・ 症状が広がらない 	リゾーパスによる 苗立枯病	緑化始期の高温多湿
	ムレ苗	特に1.5葉期以降の低温 (生理障害で抵抗力の低下)
他にも育苗中の病害はあるが、よく見られるものは上記のものです。		

松本農業農村支援センター 技術経営普及課
技術経営係 谷口 岳志
電話 0263-40-1945 FAX 0263-47-6594
e-mail taniguchi-takeshi@pref.nagano.lg.jp